

# 学校だより 希望の鐘

ひとつのつぼみはちどしかにひらかない



八戸市立  
小中野中学校  
平成30年6月26日(火)  
No.121 文責：校長  
工藤聡

## 「勉強」とは、ちょっと無理することかも…？

2次考査まで、あと2日となりました。自ら立てた目標に向かって、計画的に勉強しているでしょうか？昨日の朝、玄関で3年生男子に「部活終わって何してる？」と声をかけました。「ジムに行って体を鍛えています」という返答でした。さらに私が「テスト前だから、勉強はどうだ？」と聞くと、「全然やっていません」という、ある意味では全く迷いのない答えが返ってきました。

みなさんの中のほとんどの人は、この小中野中学校に入学して来た時や、1年生として初めて考査を受ける時には、「しっかり勉強しなければならぬ」と思ったはずですが、新しい環境の中、あるいは新たな取り組み(1次考査)に、気持ちの高ぶりを感じたのではないのでしょうか。誰しもが、そういう「やる気」を持つものなのです。ただ、その「やる気」を今も持ち続けている人は、残念ながら多くはないのではないかと思います。「やる気」がしぼんでしまったことには、いくつか理由があるのだと思います。一つには、当初の新鮮な気持ちが薄れてきたことがあるのかもしれない。二つ目には、ゲームなどの刺激的な物が周囲に多くて、勉強に意欲を失ったり、テスト期間中以外は部活動で疲れて、現実問題として勉強する時間がないのかもしれない。

担任や教科の先生、家の人は、なぜ勉強することが大切なのかを、みなさんに話してくれていると思います。将来のためとか、苦しいことにも挑戦する気持ちを養うとかいろいろあるのですが、目先(メサキ：目の前)の楽しみや、とにかく楽なことを優先してしまう人には、なかなかピンとこない(ピントコナイ：いまひとつ心に響かないこと)のだと思います。表面的には、わかったフリをしている人もいかもしれませんが、現実は一向に(イッコウニ：まったく)勉強しないのですから、本当は何もわかっていないのでしょう。そこで、「勉強」とは机に向かって問題を解いたり、漢字や英単語を書いたりすることではなくて、「自分の嫌なことでもちょっと無理をすること」だと考えてみればどうでしょうか。

中国の唐の頃の詩人で、白居易(ハクキョイ：白楽天とも言い、日本では李白や杜甫とならんで人気がある。私の頃は国語の教科書に必ず出てきていた。)という人がいます。その人の詩に『東城春老いと欲す 勉強して一たび来たり尋ね』というものがあります。「町の東では、もう春が終わりかけている。春が終わらぬうちに、無理して尋ねて来たのだ」という意味です。大変難しいのですが、何となく雰囲気はわかると思います。ただ、どうしても納得できないのは「勉強」という箇所です。白居易の詩にある『勉強』とは、私たちが日常考える「勉強」という意味ではなくて、「無理をする」という意味なのだ考えると、つじつま(ツジツマ：物事の前後関係や話のつながり方)が合いそうです。昔、魚屋さんとか八百屋さんが店先で「奥さん、勉強するから買ってよ」と叫んでいたような場面があったような気がします。「もうけは少なくなるけど、ちょっと無理して値段を下げるから買って下さいよ」ということだったのです。

以上のことから、「勉強」とは自分のすることすべてにおいて、普段よりもちょっと無理することなのです。勉強するのは、人より良い点をとるためではないのです。立派な人間になるためでもないのです。自分自身がどこまでやれるか、どこまで無理できるか挑戦することなのです。そういうふう to 考えれば、「勉強」したからといって、良い点をとるという結果に必ずしもつながらなくてもいいのです。逆に「勉強」しないということは、無理をしないわけですから、部活動でもどんなことでも、現在あるがままの実力通りの結果しか得られないことになってしまうのです。要するに、成長や向上がないのです。

明後日の2次考査まで、残された時間はわずかです。市中体夏季大会では、どの部も「無理」をして試合や応援で頑張ってくれました。全校でそれだけの「無理」が普通にできたわけですから、2次考査においても、それができないわけではないのです。「勉強」とは、ちょっと「無理」をすることです。

## 世代間ギャップ

先週土曜日の新聞に、43歳のお母さんである方の投書（トウショ：読者が、自分の意見や考えなどを新聞・雑誌などへ書き送ること）が掲載されていました。

高校生の娘と話していて、時々とても驚きます。社会を揺るがしている事件や出来事を全くといっていいほど知らないのです。話題にすると「それなに？」と無邪気に聞いてきます。毎日あれだけスマホを使用しているのに…。

対して母親の私は、娘いわく「いま世界中から大人気」というユーチューバーのことをつゆほども（ツユホドモ：ちっとも）知らず、驚かれます。親子で興味の対象が違うため、情報が偏っているのです。どちらが良い、悪いではなく、この情報過多（カタ：多すぎること）な時代だからこそ起こる、ジェネレーションギャップなのでしょう。

このため、きちんと世の中の出来事について親子で話をするように意識しています。最近でいえば日大アメフト部の一連の出来事など。社会人になったとき、閉鎖的（ハイサテキ：自分自身、または仲間内の殻に閉じこもって外部のものを受け入れようとしないさま）で独裁的（ドクサイテキ：一人の人間がすべての権力を握って物事をすすめるさま）な環境の職場に自分が行くかもしれない。ひとごとではないんだよ、と。

私が真剣に話しても、だいたい娘はのれんに腕押し（ノレンニウデオシ：少しも手ごたえや張り合いがないことのとえ）な印象ですが、少しは頭の片隅に置いてもらえるかなと思っています。そして私も、娘のおかげでSNSでの話題やJK語（女子高生が使う言葉。ギャル語）を少しは知ることができ、何の役に立つのだろうか…と思いながらも面白く聞いています。

世代間ギャップとは、年代や世代によって、思考や価値観の差があることを言います。年配の方の中には、「最近の若い人は何を考えているのかわからない」という人も多いようです。逆に若い世代の人にとっては、上の世代の人の言動が理解できないこともしばしばあるようです。もしかすると、一般的に若い人は肉系やパスタなどが好きで、年齢がいった方は和食を好むといったようなことも、世代間ギャップなのかもしれません。生きてきた年数や経験、体力等が全然違うわけですから、やむを得ないことだと思います。生徒のみなさんも、みなさん自身のためを思ってお父さんやお母さんが言っていることを、単なる小言（コゴト：不平、文句、苦情）と捉えてはいないでしょうか？これも、ひょっとしたら世代間ギャップかもしれません。

今はテスト週間ですから、部活動はありません。それは、できるだけ勉強に集中してもらいたいからです。しかしながら、そういった大人の配慮とは関係なく、時間をムダに浪費（ロウヒ：お金や時間などを無駄に使うこと）していませんか？失礼ながら、みなさんの家の人も全員が中学生（学生）時代、思いっきり勉強してきた方だけではないと思います。私も同様です。でも、親になると、どうしても自分の子どもに対しては「勉強しなさい」と言うことになります。それは、それまで生きて来た中で、「勉強すること」がいかに大切であるかを、身をもって知っているからです。全然勉強しないみなさんの中の誰かも、親になったらやはり「勉強しろ」と自分の子どもに言うのではないのでしょうか？

大人（親）と子ども（中学生）の勉強に対する世代間ギャップを、そしてみなさんの家庭の世代間ギャップを、少しでも解消してください。

### 【今日のひとりごと】

●先週のことです。近隣の大型商業施設に買い物に行った際、先日私に手紙をくれた方（手紙は希望の鐘No.118に掲載）に偶然会いました。手紙を届けてくれた方（本校在学中の生徒のお母さん）と生徒も一緒でした。3世代揃い踏み（ソロイブミ：勢揃いすること）でした。とても仲が良さそうで世代間ギャップなどないように見えました。私にも孫ができれば、こんな感じで買い物に行きたいと思いました。うらやましかったです。

●今日の私の似顔絵は、2年1組の上野瑠愛さんに描いてもらいました。少女マンガ風で目がとても大きく、メルヘンチック（童話の世界にでもありそうなさま）です。できれば、私もこんな感じであればいいと思いますが、それが現実になると少しコワイかもしれませんね。瑠愛さんも、2次考査の勉強、頑張っていることと思います。